

令和6年2月16日

南の風 OQT (オリンピック女子最終予選) 特集号IV

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

いよいよパリ五輪出場が懸る、最終のカナダ戦です。勝てばパリ五輪出場が決まります。負けるとハンガリーVSスペイン戦でハンガリーが勝てば、日本は直接対決でスペインに勝っているのでパリ五輪出場が決まります。カナダに勝ってスッキリパリ行きの切符を掴みたいと思います。

第1Q カナダは日本が得意とする3P シュートを警戒し、徹底してスイッチディフェンスから外を守ります。日本はそのスイッチディフェンスを速さのミスマッチ(カナダのセンター陣が日本の宮崎、山本選手につく形になるので)で交わし宮崎、山本選手がスピーディーなドライブで得点挙げます。

20-20で第1Q終了。

第2Q は、川井、ステファニー選手の得点で始まります。一時リードを許す場面もありましたが、エブリン選手が、この試合初めての3P シュートを決めると、山本選手も2本の3P シュートを沈め流れを掴み、赤穂選手のレイアップで逆転します。残り4分半で40-33となります。その後点差を詰められ、50-46日本リードでハーフタイムを迎えます。

後半 3Q、日本はカナダの高さを生かした攻撃で、0-6のランを作られ開始2分で逆転を許します。日本は山本選手の速攻から得点して流れを切り、再び点の取り合いに持ち込みます。エブリン選手のレイアップ、山本選手の3P シュートが決まり、残り4分63-58でリードします。その後互いに譲らない展開となり、ファウルがかさむ相手に対して平下、山本選手がフリースローから得点を挙げます。

70-67で勝負の4Q に入ります。開始早々高田選手が4つ目のファウルを犯します。ただ交代ではいったエブリン選手が3P シュートを沈め、さらにインサイドで体を張って相手エース、シェイ・コリーをファウルアウトに追い込みます。

接戦は続き、残り4分36秒で79-79の同点になります。ここで日本は宮崎選手のドライブなど、相手のゴール下を攻めて再びリードを奪うと、3点リードの残り41秒に山本選手が、宮崎選手のキックアウトパスがそれ、ルーズボールになったボールを苦しい体勢からシュートを決めて、粘る相手を突き放しました。最終スコアは86-82で勝利、”死の組”と呼ばれたグループで2勝1敗の成績を残し、上位3チームに与えられるパリオリンピック出場権を獲得しました。

3大会連続でオリンピック出場を決めたバスケットボール女子日本代表の恩塚ヘッドコーチは「チーム全体でつかみ取った勝利でうれしい。プレッシャーのかかる難しいゲームだと予想していたが、チームを信じて戦い抜こうという気持ちで試合に入ることができた」と喜びました。

そのうえでパリオリンピックに向けては「たくさんの方に応援してもらいエネルギーをもらったので、パリでは恩返しできるように頑張りたい」と決意を語りました。

キャプテンの林咲希選手は「めちゃくちゃうれしいし、ほっとした気持ちです。この1ヶ月間、練習を頑張ってきたし、メンバーに選ばれなかった選手も頑張ってきた。オリンピック出場につながることで、日本のためにみんな頑張ったという結果になってよかった」と涙をうかべながら話していました。

女子日本代表がやりました!!! パリ五輪出場です!!! 次号に続けます